

特別連載

第2回 伝わる マスク展

公益財団法人 共用品推進機構
専務理事
星川 安之氏

■タイムリーなマスク展示を実施

2021年11月10日～12日の3日間、東京ビッグサイト青海展示棟で開催された国際福祉機器展H.C.R.の主催者コーナーの一つが「日常生活支援用品コーナー」『新しい日常・多様なニーズ～伝わるマスク展～』でした。このコーナーは、今までに「片手で使えるモノ展」、「いつまでも元気で働くコツ展」、「マイサイズ展」、「十人十色展」などのテーマを設け、毎年多くの方にご覧いただいています。2021年は、コロナ禍で人々の生活に欠かすことができなくなった「マスク」をテーマに、一般社団法人日本衛生材料工業会および杉並区障害者団体連合会にご協力をいただき行いました。

■コロナ禍でのニーズ調査

今回の展示の元になったのは、東京の杉並区障害者団体連合会が所属団体の会員の方々に行ったコロナ禍における「不便さ・ニーズ調査」に集まったさまざまな声でした。回答者は、同連合会に所属する15の当事者団体ならびに、杉並障害者福祉会館の利用者、各種イベント参加者などで、合計204名。

設問の「困ったこと」、「工夫したこと」、「良かったこと」、「望むこと」に対する回答は、大きく3つ(1)感染予防、(2)家の外、(3)家の中に分類されました。

感染予防について、マスクや消毒液を購入できなかったことがありました。マスクをしないと外出や買い物ができず、ストレスがたまっていたという人はとても多くいました。障害のあるお子さんのお母さんたちはマスクを手作りしたり、また、マスクを嫌がる子どもに必要性やつけ方を教えたり、工夫をして乗り切ったと書かれていました。

耳の不自由な人々からは、「マスクをしている人の話は、口の形が見えないので話している内容が分からない」とありました。それを解決できる透明なマウスシールドなどは、ルールによって使わない行政窓口もあったとの記載もありました。

「人との距離をとる」については、視覚障害者から、ふだんなら声をかけてもらえるがそれがなくなり移動が困難だったと、複数の回答がありました。

食料などの買い物に行くときは、注意に注意を重ねて感染防止に努めたことがうかがえます。しかし、消毒液の場所やレジに並ぶ列の最後がどこかわからなかったり、マスクやビニールカーテン越しの会話を聞き取ること、および、聞き取

ってもらうことが困難だったとの声も多くあがっていました。

「伝わるマスク展」では、それらの調査結果をパネルにして紹介しました。なお、これらの展示パネルはいずれも、H.C.R.Webページにてご覧いただくことができます。

<https://hcr.or.jp/useful/mask>

■マスクのJIS（日本産業規格）

家庭用のマスクは形状によって、ブリーツ型、立体型、平型の3種類に分かれており、2021年、マスクに関する日本産業規格（JIS）が2種類、一般社団法人日本衛生材料工業連合会が事務局となって発行されました。

その2つとは、JIS T 9001：医療用マスク・一般用マスクの性能要件および試験方法（対象：一般医療用のマスクと一般家庭用のマスク）と、JIS T 9002：感染対策医療用マスクの性能要件および試験方法（対象：現在使用されているN95、DS2等の感染対応として医療従事者が使用するマスク）です。

JISでは、一般用マスクとしては4つの項目①PFE（微粒子捕集効率）②VFEウイルス捕集効率③BFE（バクテリア飛沫捕集効率）④花粉捕集効率試験の捕集効率を試験し、それぞれ95%以上の捕集効率があれば、そのことをパッケージ等に表示することができると記されています。

しかし、捕集効率が良いマスクでも、正しく装着しないと捕集効率は落ちてしまいます。全国マスク工業会では、マスク装着に関して、「鼻の形にフィット」させ、「隙間を確認」し、「顎まで覆う」ことを推奨しています。

■アクセシブルなマスクとは

今回「伝わるマスク展」で展示した障害のある人々も使いやすいマスクの特徴の一部は、下記のとおりです。

- ・耳の不自由な人の中で、相手の口の形を読んで理解している人のために、口があたる部分は透



展示パネル（一部）

明のシートになっているマスク

- ・耳にゴムをかけることが困難な人のために、頭の後ろで留めるタイプのマスク
- ・眼鏡をしている人の眼鏡が曇りにくいマスク

■マスクの周辺

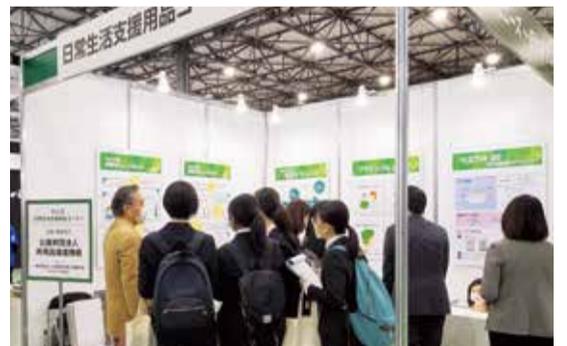
「伝わるマスク展」では、マスクをしていることによって困難になるコミュニケーションを、筆談器やコミュニケーション支援ボードを使い補完することを紹介しました。その他にも、マスクをはずした時にも首にかけておくことのできるチェーンやマスクケースも紹介しました。

■展示会の様子

3日間の展示会では、多くの人にブースにきていただくことができました。その中で約200名の人たちに、どんなマスクがあったら良いですか？と質問したところ、多くの回答をいただき、その調査結果もH.C.R.Webページに掲載し、紹介しています。

また、来場者の多くはマスクのJIS（日本産業規格）ができたことを知らず、基準ができたことを歓迎する声が多くありました。聴覚に障害のある人からは、口の形が透明で、口の形がわかるタイプのものを周りの人が着け始めてくれるとの話も聞くことができました。

コロナ禍で多くの人が使っているマスクは、多くの人に関心が高く、タイムリーな展示となりました。さらには、マスクの装着方法もさらに研究が進み、誰もが感染しにくい装着方法を身に付けられたらと、展示をしながら思った次第です。



次回開催

第49回 国際福祉機器展 H.C.R. 2022

主催 全国社会福祉協議会
保健福祉広報協会

会場 東京ビッグサイト 東展示ホール 1～8

会期 2022年10月5日(水)～7日(金)
(Web展の同時開催を予定)

出展
申込 出展要項等の調整がつか次第、
H.C.R.Webサイトにてご案内します。
URL : <https://hcr.or.jp/>
※募集開始は2月中旬頃の予定

